

勿凝学問 176

社会保障国民会議医療介護シミュレーション前提と日医

2008年9月20日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

9月17日に、日本医師会2008年第2回「医療政策会議」に出席。医療政策会議とは、生命倫理懇談会、学術推進会議とともに、日医が設置する三大会議のひとつらしく、任期2年の日医会長が、就任早々に提示するテーマを2年間かけて諮問するための会議である¹。今後2年間は、「経済成長と医療政策のあり方」を話し合うことになっている。メンバーは、下記の人たちと日医の常任理事で構成される。

医療政策会議

有海 躬行(山形県医会長)
碓井 静照(広島県医会長)
大久保吉修(神奈川県医会長)
桐野 高明(国立国際医療センター総長)
権丈 善一(慶大教授)
酒井 國男(大阪府医会長)
神野 直彦(東大大学院教授)
鈴木 聰男(東京都医会長)
妹尾 淑郎(愛知県医会長)
田中 滋(慶大大学院教授)
鶴谷 嘉武(群馬県医会長)
長瀬 清(北海道医会長)
山口 二郎(北大大学院教授)
横倉 義武(福岡県医会長)

(敬称略, 五十音順)

8月6日に開かれた第1回目の様子が紹介された[「日医ニュース」](#)に書かれている次の言葉は、全部僕のもののような気がする(苦笑)。

¹ 昨年8月22日の「医療政策会議」に外部からの講演者として呼ばれて話した内容が、「勿凝学問 103 [マイケル・ムーア『SiCKO』のすゝめ—それと日医「医療政策会議」で紹介した在日米国経済公使ズムワルト氏の談](#)」である。

「諮問から、『医療費亡国論からの脱却』という副題が浮かんだ。ついに日医がそこからの脱却を図ろうとしていると受け止めた」

「今でも医師は“欲張り村の村長さん”だと思われている。日医がイメージチェンジをし、“欲張り村の村長さん”説では説明出来ないことを行わないと、国民の不信感を払拭出来ない」

「日医が目に見える形で変化し、日本の医療全体を考えて行動している職能集団であると見えることが重要」

「医療費負担が増えた時、その増額分が何に使われるか、これだけの医療を提供するためには、これだけの医療費が必要であるなど、お金の流れを国民に分かりやすく説明する必要がある」

そして9月17日に、第2回目が開かれた。そこで僕は次のように発言した。

9月9日に、社会保障国民会議の医療年金分科会で、[社会保障国民会議における検討に資するために行う医療・介護費用のシミュレーションの前提についての議論](#)を行いました。当日は、唐澤会長はご欠席でしたが、特に日医からの意見書も提出されておりましたので、シミュレーションの前提について日医の方ではご承諾いただいたとわたくしたちは判断しております。ありがとうございました。

.....
.....
.....

んっ？ 医療介護分科会が開かれた翌日9月10日に開かれた日医広報の記者会見「[「社会保障国民会議分科会提案案「ずさん、無謀」と批判」](#)」は何って？

何もなにも・・・医療介護分科会の資料は国民会議のメンバーには事前に配付されていて、その内容の是非については国民会議の場で議論することになっている。例えば、僕は、医療のシミュレーションの中で自己負担率を65歳未満は2割、65歳以上は1割を想定した試算もやってほしいと要望したし、当日は、[日本中から集まられた方々](#)が、日本の医療介護の将来を慮って真剣に議論をした（僕の本籍は雇用年金分科会であり、医療介護分科会には（よくしゃべる）オブザーバーとして出席・・・）。

もし欠席の場合には、意見を文書にして提出するルールがあり、実際、9月9日の分科会には三鷹市市長の清原恵子さんは、意見書を提出されている。

そして当日、日医会長は欠席され、意見書も提出されていなかった。となれば、国民会議における年金・医療介護シミュレーションの提案者である僕としては、「シミュレーションの前提について日医の方ではご承認いただいたとわたくしたちは判断しております。ありがとうございました」とお礼を言うのは当然でしょう。

日医の記者会見で発表されることは日医の公式見解ですという声もほんの一部あったけど、まあ、そんなことはないでしょう。日医ほどの大人の組織が、民主主義のルールを逸脱するような大人げないことをするはずもないわけですから。

なお、9月17日第2回医療政策会議では、日本学術会議の報告書「[信頼に支えられた医療の実現——医療を崩壊させないために](#)」(2008)が、報告された。医療政策会議の桐野先生、田中先生、神野先生は、日本学術会議で「医療に支えられた医療の実現」をまとめられた先生方でもあるため、僕は、日本学術会議の報告書の視点から、医療介護シミュレーションの前提について、いろいろとアドバイスをお願いしますし、わたくしの方からいろいろと質問をして教えてもらうこともあると思いますのでよろしくお願いしますと頼んでもきた。

あっ、それと、ある新聞社が、僕は保団連、保険医協会に呼ばれていると言って、レッテルを貼ろうキャンペーンを展開しているとの話を、この日の会議終了後、聞きました。でも、残念でした。保険医協会さん、それに民医連さんたちは、怖いもの見たさおもしろいもの見たさで僕を呼んでいるだけですから。。

ご参考までに——

- 勿凝学問 107 [それでも負担増しか途はない・・・ ——共産主義とは国民負担率 100%のことなんだけどなあ](#)
- 勿凝学問 169 [孤立無援、完全アウェーでの遊び方？——民医連主催シンポジウム「崩壊の危機にある日本の医療・介護制度の『再生』に向けて」に出席して](#)
- シルバー新報 8月8日号「[遊歩道](#)」

それと、これもどうか。

- 社会民主党会報『社会新報』
政策セミナー2008 講演録「[日本の社会保障と医療](#)」(8月23日)

ちなみに僕は、[日本歯科医師会](#)や日医とはあまり仲の良くない日本病院会からも[この書評](#)以来、よく連絡が来たりもする。費用負担者側である健保連では、昨年は「[医療保険制度における財政調整と財源負担に関する調査研究](#)」、今年「健康保険組合論調査研究」にも参加しており、大企業はもっと医療保険料を支払うべきだと話しています。要は、どこに行っても相手が誰であっても、同じことを言ってるだけ。学生には、生きていく上で最も重要なもの、それは「愛嬌と要領」、仕事をする上で最も重要なもの、それは「工夫と段取り」と言ってまして、次のようなメールで講演の依頼が来るわけだから、愛嬌、要領、工夫、段取りという4つの要素のうちの何かでもってかなり許してもらっている側面があることは、重々承知しております、はい。

「"アウェー"かもしれませんが、どうぞ遠慮なく、ご発言下さい。先生のお人柄は、少々きついことを言っても、十分カバーできると思います」